

# 1. 巻頭言

“総合情報処理センターレポート第9号”によせて



総合情報処理センター長

山田 英二

本号の表紙をご覧になって、少し違っていることにお気付になったことと思います。勿論、昭和63年4月に従来の情報処理センターが省令化されましたので、“総合情報処理センターレポート”と名称が変わって当然なのですが、実を申しますと本号は、総合情報処理センター発足の記念すべき特集号になる予定でした。そして開所式で戴いた学長をはじめ来賓各位のお祝辞をすべて載せるとともに、増築した新センター建物の御案内や新システムの御紹介等で賑やかに飾るべく準備を進めておりました。しかし建物の着工が遅れて開所式も挙行出来なくなりましたので、とりあえず従来通りのセンターレポートをお届けすることになりました。しかし近いうちに開所式も行えると思いますので、その時に改めて記念特集号を出版致します。

つぎに、本号より表紙の右上隅に、小さく“ISSN 0915 - 7565”と印刷されています。御承知の通りこれは国際標準逐次刊行物番号で、今回より本レポートを文字通り終期を定めない継続出版物として国際登録しております。それゆえ、長崎大学総合情報処理センターを、国際的にも恥ずかしくないものに育て、発展させていかねばならないという自らに課した努力目標であります。

学内には、スーパーミニコン、EWS、パソコン等が続々と導入されております。情報処理センターも総合情報処理センターに昇格しコンピュータの処理能力は一桁増大しましたが、それでもCPU時間は二倍以上増えております。また、コンピュータの使用法も多様化の一途をたどっております。これらに学内の共同の施設として対応すべくセンター教職員も日夜懸命の努力を重ねておりますが、本センターを長崎大学の財産として発展させていくためには、学内のご理解が不可欠であります。最後に皆様方の暖かい御支援と御鞭撻を重ねてお願いする次第です。